



## 大雪の朝に

大雪の翌朝（火曜日）、いつもより30分程度早めの6:30分に通勤したのですが、すでに駐車場の雪はほぼ片づけてある状態でした。用務員の瀬谷さんをはじめ、教頭先生、多くの先生方の顔からは湯気が立ち昇っていました。聞けばまだ暗いうちから作業を始めたとのこと。

随分と過ぎてから子ども達が一人また一人と登校してきました。早めに家を出てきた子、家の前の片づけを手伝ってきた子、学校の下は車の送りで混雑が予想されるので、途中から歩いてきた子とそれぞれでしたが、みな一様に元気でした。どうやら大雪が迷惑なのは大人だけのようで、中には、半そで短パンで車から降りる子もいました。（さすがに声をかけ注意しました）この日は、全校集会もありましたので、用務員さんや先生方の朝の様子、徒歩通学の子どもの様子についてもふれました。

話は変わりますが、大雪の日は決まってある光景を思い出します。それは今から50年も前のことです。

前日の大雪で、雪の深さは膝小僧くらいでしたので、その日は登校できず欠席や遅刻する子が多くいました。月曜日でしたので、全校集会がありました。全員の登校を待っての集会は10時過ぎとなりました。約100名の全校生のうち体育館に集まったのは80名くらいだったでしょうか!?校長先生のお話は、「大雪だったのによく登校しました。」と、いうねぎらいの言葉だったと記憶しています。会が進む中、突然体育館の扉が開くとそこに用務員さんに連れられ、二人の児童が立っていました。全校生が一斉に振り返り歓声が起こります。そこにいたのは高学年と低学年の二人の兄弟。

私は当時中学年、学校までは比較的近かったのですが、雪の日も登校できる距離でした。しかし、その兄弟の家から学校までは優に4kmはありました。しかも50年前ですから、途中からは車はおろか、バイクでしか通れないような道でした。そのことを多くの子ども達が知っていたので、歓声が起こったわけです。これには会場の先生方もびっくり、校長先生からはマイクを通して特別に称賛の言葉がありました。全校生も拍手で讃えました。

後から知ったことですが、その日は、兄弟の父親が少し広い道路まで雪をはきながら途中まで送り届け、後は二人で歩いてきたとのことでした。おそらく片道2時間程度はかかったのではないかと思います。

雪が降れば、子ども達の通学路を確保するのは、当時は当たり前のことだったように思います。地域の大人が総出で雪をかき分け、子ども達の登校をサポートしました。学校は勉強する場所、学校に行かなければ勉強が遅れてしまうことを当時の保護者も一番に危惧していたのでしょう。

今回の大雪、多くの子ども達が徒歩やバスで登校しました。何人かの子ども達に早速インタビューすると、

〇〇の前に少しだけ残ってたけど、あとはちゃんとはいてあったから大丈夫でした。  
バス停までお父さんと一緒に歩いてきた。  
大人の人が道路に出て、雪の片付けしてました。

との返事。登校後に、残った雪の片づけを手伝う6年生の姿もありました。

思いやりと優しさが、心にしみる朝でした。

さて、前出の昔話には続きがあります。

兄弟をねぎらった校長先生、話を続けます。

皆さん今日は本当によく登校しましたね。でも、この大雪なので帰りが心配です。今日は授業は行いません。安全に家に帰りましょう。

帰り道は先生方がそれぞれに引率を分担し、方部ごとの楽しい集団下校となりました。50年前の思い出です。

